

うたごえ新聞

1/6・13

(合併号)
(1992年)
NO. 1379

THE SINGING
VOICE OF JAPAN

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒169 東京都新宿区大久保2-16-36
☎ 03(3209)0638 F A X 03(3200)0105
振替口座 東京2-5631 毎週月曜日発行
1部120円・税4円(〒26円)・月480円・税15円(〒120円)



50億の愛しきひとにー

新春インタビュー 歌手・加藤登紀子さん

92年新春の「ときめきインタビュー」はこの人、歌手・加藤登紀子さん。「百万本のバラ」「REVOLUTION」ON「うたごえ」の合唱団でもこの曲は各地でうたわれていた。「年齢を越えて、生活を越えて歌をうたいたい」という加藤さんの信念そのまま、時代をどろえた歌、世界中を歌でつなぐスケールの大きさ。今年もビッグに、加藤登紀子さんに聞く。

聞き手は、大のファン、この間、調査研究(笑)も大いにすすんでいた高橋正志・日本のうたごえ事務局局長(ちなみに同い年)。

高橋 あけましておめでとうございませう。加藤さんの歌、本も何冊か読ませていただきましたが、新年のインタビューで、ぜひその深い、大きなスケールから、今年の息吹を感じたいと今日はどうも楽しみに来ました。よろしくお願いします。

加藤 こちろいこそよろしく。私、うたごえです。

うたごえの思い出

高橋 そつですか、うたごえ

懐かしいです。

中学の時、先生がうたごえ運動やってくる人で、ロシア民謡なんかみんなよくうたいましたよ。私は別の意味でも家がロシアレストランを始めたりして、ロシア民謡のつながりも深かったんですが、でも、片一方であるんです。うたごえ運動からのロシア民謡の思い出、へやまのむすめロザリア……とかね。(笑い)。得意だったんです。

高橋 そつですか、うたごえ

迎春

◆加藤登紀子さんに聞く 1・6・7面 ◆富士は訴える

3面 ◆地球環境SOS!

◆聿たちの行動する音楽家たち (和田静香) 2面 ◆三多

4面 ◆摩青年合唱団 音楽ホール建設にける夢

◆連載「食は訴える」(三輪純永記者) 9面 他

えも来年四十五年周年を迎えます。うたごえでは加藤さんの歌をよりうたっているんです。

加藤 ええっ！ そうなんですか。

高橋 「美しき五月のバリ」もさうです、最近は「百万本のバラ」や「REVOLUTION」や。「REVOLUTION」は中国の天安門事件の直後につくられたと知って、すごいなと聞いていたんですが、あの後からですねえ、東欧に政変が波及して、まさに激動の時代になっていったんですが。(6・7面つづく)

春を迎えるに書いて、迎春。新年をふるさとで迎える人、家族水入らずで迎える人、旅行・レジャーで過す人、過し方は様々でも、新しい年は、ただそれだけで希望に胸ときめかせたい。日頃、忘れていた心ときめきの「ゆと」。☆ ☆ ☆

忘れられる心、心が「おごと」と話していたのは、中学校の教師をやっている友人だった。教師になつてからの十年余、どんなに忙しくても三日に一回は学校通信を発行しつけてきた彼。年度末には数百通になった学校通信に、りっぱな袋丁がほどこされ、生徒たちに贈られる。☆ ☆ ☆

教師が、自分を見失ってしまったら生徒に話ることができない。彼は通信を通して生徒たちに問いかける。PKO、憲法、ヒロシマ、ホームレス、ベルリンの壁といった問題にとどまらず、音楽、文学から就職、進学、恋愛にいたるまで。それは、彼にとって自分自身への問いかけでもある。☆ ☆ ☆

週休二日制が一般化し、学校の週休二日も実施されるという。ゆとり社会への第一歩、そんな見出しが週刊紙におとる。が、一方で九一年ほど「カローシ」という言葉があたり前に語られた年はなかったのではないかと。流されず、あきらめず。九二年、誰にとっても「迎春」となる年であるように。

